

第十三回りゅうぎん紅型デザイン公募展 受賞作品決定

琉球銀行は、毎年、りゅうぎん紅型公募展を開催しています。

県内の若手工芸家の育成と伝統工芸である紅型を広く紹介することを目的に開催するもので、十三回となる今回は、四十点の作品応募があり、応募者も二十歳から五十七歳と幅広い年代にわたりました。

「マヨイガ」
山本 ふじの

技術賞
「蝶の舞う庭」
真栄城 之枝

デザイン賞
「カジマヤ（時の流れ）」
呉屋 未美

奨励賞
「ジュノー（灯籠）」
高嶺 明子

奨励賞
「くぐり日和」
石田 麗



大賞「マヨイガ」/ 山本ふじの作
第13回りゅうぎん紅型デザイン公募展表彰式



受賞作品(敬称略)

大賞

「マヨイガ」
山本 ふじの

技術賞

「蝶の舞う庭」
真栄城 之枝

デザイン賞

「カジマヤ（時の流れ）」
呉屋 未美

奨励賞

「ジュノー（灯籠）」
高嶺 明子

奨励賞

「くぐり日和」
石田 麗

審査講評 星 雅彦
(美術評論家・詩人)

マヨイガとは迷う家のことであるらしく、東北地方の伝説の中に、迷いながら辿り着いた桃源境の話があり、理想の境地を意味するといふ。作者は沖縄のニライ・カナイの思想にやどる共存の世界と重ね合わせて、一種のユートピアを想定したようである。

そうした夢想的な発想のもとに、図案作成に熱中し、民家をとりにまくブーゲンビリアや月挑や、微風になびく表現に成功している。

その豊かな配色や緻密な描写の技術などは、テーマと調和がとれ全体的に冴えわたっている。

りゅうぎん子どもお金教室 二〇〇名の募集が二週間で締め切りに



札敷(お札を素早く数える技術)競争で熱気に包まれた会場

募集開始から二週間で定員二百名を上回る二百四名の応募がありました。午前九時から琉球銀行本店でお金の流れや「お金の大切さ」についての講義があり、お小遣い帳の記入方法などを勉強しました。一千万円の紙幣束や百

万円の硬貨を持つたり、お札を正確にすばやく数える体験コーナーは大人気となりました。続いて、日本銀行那覇支店を訪問し、新紙幣の偽造防止の仕組みや技術、日本銀行の役割を学習。さらに、バスで琉球銀行浦添ビルに移動してコンピュータ・センターやコールセンターなどを見学しました。

最後は、行員食堂で昼食を取り、本店への帰りのバスでは「りゅうぎんロポ貯金箱」や日本銀行でもらった「判断後の紙幣」などのプレゼントで盛り上がりました。子どもお金教室は、二〇〇三年に琉球銀行の創立五十五周年を記念して開催したのですが、参加児童の父兄から再開の要望が多く寄せられたことから、継続的な地域貢献活動として実施していきます。

対外研修の受け入れを実施

沖縄県警察本部、インターシップなど研修生を受け入れ

琉球銀行では、毎年、各機関や学生のインターシップなど対外研修生を受け入れています。

今年も沖縄県警察本部から二名、学生のインターシップ十八名を受け入れました。

沖縄県警察本部からの研修生については九日間、本部業務を中心に研修

を実施。インターシップについては研修成果を窓口業務のロールプレイング大会で確認しました。

また、インターシップに参加した学生のアイデアをヒントに新商品「LOVEサンゴ定期預金」が開発されました。

琉球銀行は、こうした教育支援を通して地域社



ロールプレイング大会成績優秀者の皆さん